

これからの若い人、特に18歳から20代の人たちに伝えることがあるとしたら、以下のことになる。決して自分ができていたわけではない。むしろ、できなかったために後悔しているという話である。

20代は勉強したほうがよい。この時期にサボると、楽をすると後々響いてくる。勉強することはたくさんあるが、中でも縁の大切さを学べると大きい。「若いときに流さなかった汗は、老いてから涙となる」これは、ある高校の卒業式に来賓として出席した際に、同窓会長さんの挨拶に出てきた言葉である。

人から何かのお誘いをいただいた時には、可能な限り参加することである。とかく若い頃は、この会に参加すると、どんなメリットがあるのだろうと近視眼的に判断してしまいがちである。会に参加しても知り合いもないし、つまらなそうだななどと思うこともあるだろう。しかし、たとえすぐには役に立たなくても、10年、20年という長いスパンで見れば、必ず何かを自分にもたらしてくれるものである。目の前の一つ一つのご縁を大切にすることで、知らぬ間に大きなネットワークが出来上がっていき、人生が豊かになっていく。

これからの時代を生きる若い方々には、「ご縁を大切に」と伝えたい。日々の出会いをよき縁に発展させていく上で大切なことは、誠実であること、そして楽しむことである。普段からこの2つを大切に人と接することで、不思議なくらい様々なご縁に恵まれるようになる。

『論語』に「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず」とある。何事も、うまくなろうと思えば好きになったらいい。けれども、その好きを上回るのが楽しむことである。人にも仕事にも、誠実に楽しく向き合うことで、よきご縁が生まれ、人生は大きく開けていく。

誠実さに加えて、謙虚さがあるとなおよい。若いうちは、生意気で調子に乗りやすい。自分を過大評価し、傲慢になりやすい。思えば、自分がそうだったように思う。客観的に昔の自分を見てそう思う。無知とは恐ろしいものである。あの頃は、まるで自己の客観視などできていなかった。

それでも、それなりに縁には恵まれてきた。かなり運がいいようにも思う。だが、誠実さや謙虚さが足りないために、せつかくの出会いが縁とならなかったことも多かったのだろうと反省する自分がある。もう少し、ものごとがわかっていたら、自分の人生がもっと違った展開になっていたと思うこともある。

歳を重ねてきてからは、「まずは動く」を心がけてきている。その結果、思いがけない出会いや不思議な縁に、自分が生かされているという感覚をもつようになっている。自分の意思はあるのだが、それとはまた違った力が働いているような気がするのである。何かに引っ張られる、何かに導かれる、何かに背中を押される、どの表現が一番しっくりくるかはわからない。

これから20代を生きていくチャンスがある若者たちには、誠実に謙虚に生きてほしい。多少、生意気でも傲慢でもいい。だが、根底には誠実と謙虚を置いてほしい。きっと、若いうちから生かされている、何かに導かれている感覚がもてるはずである。

20代をどう生きるか。これは自分の人生をどう生きるかということに直結している。20代、それは自分の人生の方向性を決めかねない、かけがえのない、そして決して戻ることができない重要な時間である。